

問1 鹿児島県などの地形図に見られる、標高の低い谷状の土地の利用について述べた文として、正しいものを次の中から選びなさい。（2020年 群馬県公立入試 類似）

1. 周辺に比べて水が得やすいため、水田として利用されることが多い。
2. 傾斜が急で水の確保が難しいため、主に森林として利用される。
3. 平坦で広大な面積を確保しやすいため、大規模な工業団地が造成される。
4. 土壌の通気性を確保するため、水田ではなく果樹園として利用される。

問2 日本の諸地域に関する統計において、人口が約1400万人を超え、農業生産額が約1.9兆円に達し、年間商品販売額も中国・四国地方を上回る規模を持つ地方はどこですか。（2023年 青森県公立入試 類似）

1. 九州地方
2. 中国・四国地方
3. 東北地方
4. 近畿地方

問3 那覇市の気候統計における気温と降水量の特徴について、札幌市、松本市、高松市、福岡市と比較した記述として正しいものを選択してください。（2024年 栃木公立入試 類似）

1. 梅雨や台風の影響により年間降水量は多い傾向にあるが、海洋の影響を受けるため、気温の年較差は内陸の松本市より小さい。
2. 日本の最南端に位置するため、年平均気温は福岡市よりも高いが、年間の総降水量は瀬戸内の高松市よりも少ない。
3. 1月と7月の月平均気温の差が松本市よりも大きいことが、亜熱帯に近い那覇市の気候の大きな特徴である。
4. 南西諸島に位置するため、1月の平均気温が札幌市や福岡市を下回る月があり、冬の乾燥が非常に激しい。

問4 北海道の洞爺湖の近くにある有珠山は、たびたび噴火を繰り返す活火山ですが、周辺地域では火山と共生したまちづくりが行われています。火山が地域にもたらすマイナスの影響とプラスの影響を考慮したとき、適切な説明はどれですか。（2023年 茨城県公立入試 類似）

1. 火山灰による農作物への被害や噴火災害の恐れがある一方で、温泉や美しい景観が観光資源となっている
2. 火山活動によって土地が肥沃になり稲作が飛躍的に発展したが、地熱によって周辺の気温が上がりすぎる弊害がある
3. 噴火によって流出した溶岩が平坦な土地を作るため工場誘致に有利だが、火山ガスの影響で精密機械の製造が困難である
4. 火山灰が降り積もることで大規模な森林が形成され林業が盛んになるが、山火事が発生しやすいリスクがある

問5 熊本県の農業産出額の内訳を分析したとき、野菜と畜産の産出額がいずれも1,100億円を超えている状況から読み取れる、この地域の農業の強みとしてふさわしい説明を選びなさい。（2020年 熊本県公立入試 類似）

1. 野菜と畜産の両方で高い産出額を維持しており、多角的な農業経営が実現されている。
2. 米の産出額が他の品目を圧倒しており、単作地帯としての特色が強い。
3. 野菜の産出額は高いものの、畜産や果実の生産は減少傾向にあり、特定の品目への依存が進んでいる。
4. 農産物の輸出に特化しているため、国内向けの野菜や畜産の生産額は極めて低い。

問6 福岡県の工業は、かつては北九州工業地帯を中心とした鉄鋼業や化学工業などの重化学工業が盛んでしたが、1970年代の石油危機以降、産業構造に大きな変化が見られました。この変化の内容と背景について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2016年 東京都公立入試 類似）

1. 石油危機後の不況をきっかけに、従来の沿岸部における重化学工業から、広い用地が確保しやすい内陸部や県東部を中心とした自動車工業へと主力産業が移行した。
2. 石油危機を契機に北九州工業地帯の鉄鋼業をさらに強化し、海外からの原料輸入に頼らない自給自足の体制を整えることで、製造品出荷額を維持した。
3. 1980年以降、製造業が県外の愛知県や神奈川県へ流出したため、工業地帯を縮小し、九州地方の特産品を活かした農業中心の産業構造へと転換した。
4. 環境問題への対策として沿岸部の工場をすべて閉鎖し、福岡市を中心とした商業と観光業のみに特化する政策をとったことで、工業出荷額は減少傾向にある。

問7 日本の九州地方に位置するある県では、農業産出額の構成において「米」や「野菜」と比較して「畜産」が占める割合が非常に高く、全体の約半分に達するという特色があります。肉用牛、豚、鶏の飼育が盛んなこの県はどこですか。（2018年 岩手県公立入試 類似）

1. 宮崎県
2. 新潟県
3. 青森県
4. 埼玉県

問8 福岡県と佐賀県にまたがる筑紫平野では、かつて農業用水の確保や排水を目的として、網の目のように巡らされた人工の水路が活用されていました。この水路の名称として正しいものを選びなさい。（2022年 宮城県公立入試 類似）

1. クリーク
2. カルデラ
3. 輪中
4. 扇状地

答え合わせ・解説

問1	答え 1 周辺に比べて水が得やすいため、水田として利用されることが多い。	低地や谷状の地形は、河川からの取水や周囲からの湧水が得やすく、水利条件が良いのが特徴です。そのため、地図記号においても「水田」を示す記号が描かれることが一般的です。一方で、森林や工業団地などは、排水条件や地盤の安定性、広大な用地確保の観点から別の場所が選ばれる傾向にあります。
問2	答え 1 九州地方	提示された統計数値において、人口が約1431万人、農業生産額が約1.9兆円という規模を持つのは九州地方です。九州地方はシラス台地での畑作や平野部での稲作など、広大な土地と温暖な気候を活かした農業が非常に盛んであり、農業生産額は中国・四国地方の約0.9兆円と比較して約2倍の規模を誇ります。また、人口規模が大きいため、商業活動の指標となる年間商品販売額も中国・四国地方より大きくなる傾向があります。
問3	答え 1 梅雨や台風の影響により年間降水量は多い傾向にあるが、海洋の影響を受けるため、気温の年較差は内陸の松本市より小さい。	那覇市は黒潮（暖流）の影響を受けるため、冬でも温暖で、1年を通じた気温の変化が緩やかです。そのため、内陸部特有の気候を持ち気温差が激しい松本市と比較すると、1月と7月の気温差は小さくなります。降水量については、台風の進路にあたることや梅雨の影響で、全国的に見ても多い部類に入ります。福岡市よりも平均気温が低い、あるいは高松市よりも年降水量が少ないといった記述は、実際の統計上の傾向とは異なります。
問4	答え 1 火山灰による農作物への被害や噴火災害の恐れがある一方で、温泉や美しい景観が観光資源となっている	火山は、降灰による農作物への被害や、噴火による建物・インフラの破壊といった災害リスクを地域にもたらします。しかし同時に、有珠山周辺の洞爺湖のような美しい景観や、地熱による温泉、そして肥沃とはいえないまでも特殊な土壌を生み出すなど、観光業を中心とした大きな経済的恩恵ももたらしています。このように、自然の脅威と恵みの両面を理解することが地理学習では重要です。
問5	答え 1 野菜と畜産の両方で高い産出額を維持しており、多角的な農業経営が実現されている。	熊本県は、阿蘇の外輪山周辺での畜産や、平野部での野菜栽培など、多様な地形を活かした農業が行われています。統計においても、野菜（1,247億円）と畜産（1,147億円）という、本来は異なる形態の農業が共に出色な数値を記録しており、バランスの取れた産出構造であることが、地域の農業の安定性と強みにつながっています。
問6	答え 1 石油危機後の不況をきっかけに、従来の沿岸部における重化学工業から、広い用地が確保しやすい内陸部や県東部を中心とした自動車工業へと主力産業が移行した。	福岡県では、官営八幡製鉄所の操業以来、北九州市の沿岸部を中心に鉄鋼業などの重化学工業が発展してきました。しかし、1970年代の石油危機による不況を境に、産業構造の転換が進みました。広大な用地や労働力を求めて、内陸部や県東部に自動車工場が進出したことで、加工組立型の工業が成長し、県全体の産業を支える新たな柱となりました。
問7	答え 1 宮崎県	九州地方南部に位置する宮崎県は、シラス台地などの火山灰層が広がる地形的制約もあり、古くから広大な土地を活かした畜産業が発展してきました。全国でも有数の農業産出額を誇り、特に肉用牛や豚、ブロイラー（鶏）の生産で全国トップクラスのシェアを占めています。他の選択肢について、新潟県は米、青森県は果実（りんご）、埼玉県は近郊農業による野菜の産出額割合が高いのが特徴です。
問8	答え 1 クリーク	筑紫平野は標高が低く、干拓によって土地を広げてきた歴史があるため、水の管理が極めて重要でした。そのため「クリーク」と呼ばれる水路を張り巡らせることで、稲作に必要な水の貯蔵や、大雨の際の排水を行ってきました。現在は土地改良事業により整理が進んでいます。